



膠原病の特徴的な皮膚症状と基本的な治療法

深井達夫
順天堂大学医学部附属練馬病院 皮膚・アレルギー科 准教授

- Point**
- ▶ 膠原病の皮膚症状は多彩だが特徴的なものが多くみられる
 - ▶ 早期発見や病勢の把握のため、皮膚症状の確認はとても有用である
 - ▶ 薬物療法だけでなく、遮光や刺激の回避など日頃のケアが重要である

はじめに

膠原病の皮膚症状(皮疹)は多彩で、特徴的な症状は診断の契機になることもまれではありません。本章では、膠原病のなかで主要疾患と考えられる、

エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎の特徴的な皮膚症状と、基本的な治療法について記します。

エリテマトーデス¹⁾

エリテマトーデス(lupus erythematosus ; LE)は、皮疹名と診断名が同列に扱われ、ややわかりにくい現状がありますが、最近では診断名として全身性(systemic LE ; SLE)、皮膚限局性(cutaneous-limited LE ; CLE)およびその中間型

(intermediate LE ; ILE)に分けること、特異性皮疹は急性型、亜急性型および慢性型と分けることが提唱されています。これにより、診断と皮疹の状態を2次的に理解することで、患者の状態を的確に評価できることとなります²⁾。



図1 蝶形紅斑
鼻梁をまたぐ両頬部の紅斑がみられる

急性型皮疹

急性型皮疹としては主に蝶形紅斑があります。これは、両頬に現れる隆起性紅斑で、時に鼻背にかかることもあり、羽を広げた蝶のようにみえます(図1)。急性型皮疹がある場合は通常SLEと考えられます。

亜急性型皮疹

亜急性型皮疹として、SCLE(subacute cutaneous LE: 亜急性皮膚エリテマトーデス)型環状紅斑と、SCLE型丘疹鱗屑性皮疹があります。

前者は自己抗体の抗SS-A抗体と関係しており、シェーグレン症候群でも類似の皮疹が生じます。新生児エリテマトーデスの際にみられる皮疹としても重要です。

後者は角化の強い丘疹・紅斑がとくに露光部に多くみられ、光線過敏が背景にあると考えられています。

慢性型皮疹

慢性型皮疹としては、DLE(discoid LE: 円板状



図2 DLE型皮疹
頬部に癒合する紅斑に瘢痕を伴っている

エリテマトーデス)型皮疹、凍瘡状LE型皮疹、深在性LE型皮疹があります。

最も有名なものはDLE型皮疹で、類円形の角化性紅斑で、鱗屑を伴い、後に萎縮性瘢痕を残すことが多いです。顔面や耳介に好発します(図2)が、頸部以下に多発することもあります(播種状DLE)。